



◆◆◆◆◆

●勤務医に関する話題や投稿などで構成するコーナーです。勤務医生活の雑感、あるいは意見をこの欄にお寄せください。
●投稿要領…700字程度、名古屋市昭和区妙見町19-2、愛知県保険医協会「勤務医コーナー」係まで。薄謝進呈致します。

「ことわざ」が消えていく

千種区 根来民子

その1:医学部の学生が脳波検査の見学に来た。通常短時間の見学中に脳波に劇的な変化が起きることは

ない。この時は過呼吸中に三Hz棘徐波複合が出現した。技師さんが呼名を繰り返す。返事はない。欠神発

作の発作時脳波だ。学生達は患者さんのモニター画面を注目しているが、特に劇的な変化はない。見学終了時に、「トリッキーだったね。一番有名なてんかん波である三Hz棘徐波が見られる。」「暖簾に腕押しか?」「ほそっと言ったら、それはどうゆう意味です

か?」。「糖に釘」「豆腐に銚」と言っても無言。「馬の耳に念仏」「豚に真珠」「猫に小判」と言ったら、「何となくわかりました」と。

その2:自閉スペクトラム症(ASD)の児が漢字のドリルに取り組んでいた。穴埋め問題で『壁に①あり、障子に②あり』と書いてある。ASDの児は例え話やことわざが苦手である。彼の答えは①ヒビ、②穴であった。答え合わせのページには①耳、②目に加えて、それぞれリアルなイラストが描いて

あった。彼は言った。「壁には耳はないもん」。ASDの児は視覚的な情報の方が理解しやすいと言っても、これはやりすぎだ(実はこの問題、ことわざではなく、似た漢字の耳と目の違いを教えるのが目的だったらしい)。

その3:学生には機会があるたびに『百聞は一見に如かず』と関連施設の見学を勧めていた。最近の学生の中には「ネットで情報も動画も見られます。」「ことわざを教えてくれるものがない。最近の論文には百個以上の文献が引用されている

ことも珍しくない。『百聞よりもインパクトのある言葉を探していた。内村鑑三が『百聞は一見に如かず、千詭一行に及ばず』と言ったという。これはいいと思ったが、この言葉を見つけたのが、時田昌瑞著「辞書から消えたことわざ」だから、説得力に乏しい。

「庶民の哲学」と言われている「ことわざ」が消えていくのは寂しい。